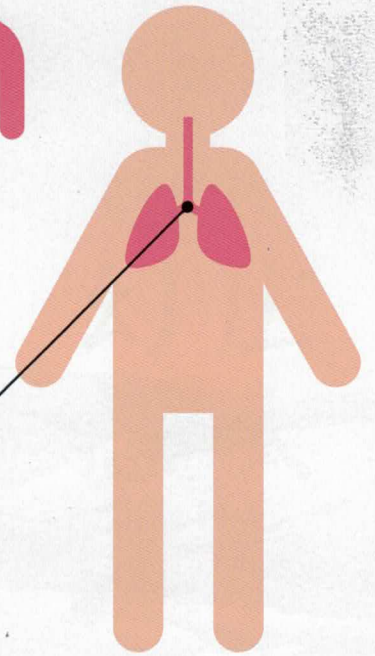


臓器のはなし



今月は 気管(気管支)

食事と空気の仕分け 異物を除去

気管支炎から
肺炎への進行も

喉から肺まで続く、細長い空気の通り道が気管です。肺からは左右に枝分かれして気管支と呼ばれ、分岐がさらに進みます。そして、その先端に付いた多数の小さな袋が、外気と血液のガス交換(酸素と二酸化炭素の交換)を行う肺胞となります。

皆さんもよく耳にされる気管支炎とは、感染症の一種。空気とともにいろいろなウイルスや細菌が気管支に入り込んで、炎症を起こす病

気です。発熱・せき・痰・鼻汁といった風邪と同じような症状が出ます。さらに悪化して肺までウイルスや菌が到達すると、肺そのものが炎症を起こす肺炎となってしまうのです。

インフルエンザも、発症後すぐは気管支炎と同じ症状が出ます。体力のない高齢者などは肺炎を併発して、重症化リスクも高くなります。ちなみにインフルエンザ感染から肺炎を起こす場合でも、二次的に細菌による肺炎が起こることが多いとの報告があります。

きれいに保つ
線毛の働き

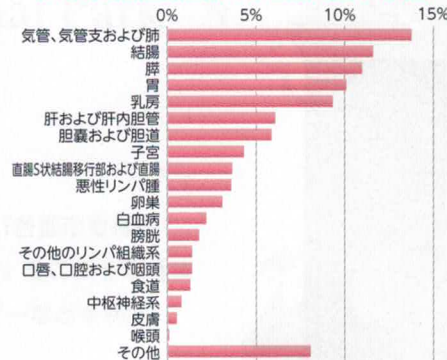
食事の際、食べ物は気管に入らず食道を通ります。一方、口・鼻から入る空気は、食道へ流れず気管へ抜けます。この仕分けをしているのが、気管の入り口にある喉頭蓋です。喉頭蓋はまさにフタの役割を担います。呼吸をしている時には開放し、空気

を気管へ取り込みます。物を食べた後、飲み込んだりする時には、閉じて食べ物が入らないように防ぐのです。

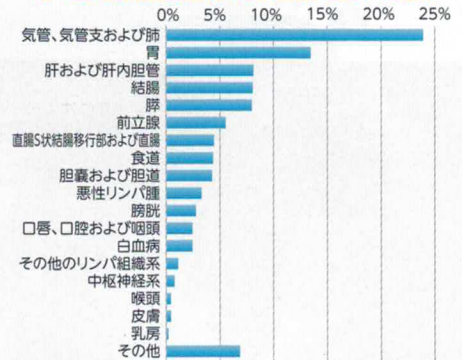
それらは生理的な反射ですが、年を重ねて衰えてくると機能が鈍り、誤嚥(食物などが誤って気管に入ってしまう状態の原因になります。急いでご飯をかき込んで食べたり、そばを一気にすすり過ぎてしまうのも誤嚥につながるかもしれません。また、呑気症という、大量の空気を胃に吞み込んでしまう病気もあります。本来は気管へ送られるはずの空気が胃袋に溜まるため、ゲップをたくさんしてしまうのです。

気管のもう一つの大きな役割は、体内へ侵入する異物を除去すること。呼吸によって体内には、極めて小さい異物や細菌が入ります。それらを追い払い、気管支をきれいに保つ働きをしているのが、気管支の表面に生えている線毛です。入ってきた異物を、粘膜の細胞から分泌される粘液がキャッチ。すると線毛が動き、粘液と異物を痰として喉の方へ押し出します。体にとって悪いものを線毛が外に排除してくれるのです。

がんなど悪性新生物の部位別死亡率(女性)



がんなど悪性新生物の部位別死亡率(男性)



出典：厚生労働省「人口動態統計(確定数)」(平成29年)

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。